

- 問1 東京都の人口に関する統計において、昼間人口が約1557万人であるのに対し、夜間の常住人口は約1315万人となっています。このように昼間人口が夜間人口を200万人以上も上回っている主な要因として、最も適切な説明を選びなさい。（2016年 静岡県公立入試 類似）
- 埼玉県、千葉県、神奈川県などの近隣都県から、通勤や通学を目的として多くの人々が流入するため。
 - 東京都内に大規模な工場が建設され、夜間に周辺地域へ働きに出る労働者が減少したため。
 - 東京都の出生率が周辺の県に比べて非常に高く、若年層の人口が自然増加し続けているため。
 - 都心部の再開発により、郊外に住んでいた人々が再び東京都内へ住居を移す「都心回帰」が進んだため。
- 問2 日本の近代化や文化の伝来について述べた次の記述のうち、ペリーの来航地である浦賀や、開港場となった横浜を擁する都道府県に該当する説明として最も適切なものを選びなさい。（2016年 山口県公立入試 類似）
- 1915年に豊中市で最初の全国中等学校優勝野球大会が開催されるなど、古くからスポーツが盛んで全国最多の優勝回数を誇る府県である。
 - 正岡子規が野球用語を日本語に翻訳した地として知られ、幕末にはペリーが来航したものの開港は拒否し続けた歴史を持つ。
 - 1870年代に野球などの西洋文化がいち早く伝えられた地であり、県内には現在も日本を代表する貿易港である横浜港が位置している。
 - 明治以降の日本の主力輸出商品であった生糸の生産地として知られ、横浜港へ生糸を送り出す鉄道網が最初期に整備された内陸の県である。
- 問3 八王子市の「みなみ野」地区における1985年から2015年にかけての地形図の変化と、その背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
- もともと存在した複数の神社をすべて取り壊し、その跡地に高層マンション群と新しい鉄道駅が建設された。
 - 古くからの市街地において、歴史的な景観を維持するために住宅の建て替えのみが行われ、駅周辺の土地利用に大きな変化は見られない。
 - もともと平地に広がっていた田畑が、工場誘致によって大規模な工業団地へと変化し、それとともに貨物専用の駅が作られた。
 - もともと森林や山地だった場所が、区画整理によって計画的な住宅地となり、利便性を高めるために新しい駅が建設された。
- 問4 栃木県・群馬県・茨城県を中心とする北関東の工業地域において、1960年代には内陸部に点在していた工場の分布が、近年では特定の交通網に沿って集中するように変化しています。この地域で新しく工場や物流拠点が建設されている場所の特徴として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
- 高速道路のインターチェンジ周辺
 - 大型貨物船が停泊できる港湾の付近
 - 広大な農地を確保しやすい山間部の急斜面
 - 貨物列車の積み込みを行う鉄道駅の周辺
- 問5 日本の貿易における輸出拠点の統計データにおいて、成田国際空港は名古屋港などと並んで常に上位に位置しています。この空港から輸出される製品の特徴として最も適切なものを、次の説明の中から選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
- 小型・軽量で重量あたりの価格が高い、半導体等製造装置などの高付加価値製品。
 - 世界各地へ専用の運搬船を用いて大量に輸出される自動車。
 - 重量があり船舶での輸送が適している鉄鋼や大型の工作機械。
 - 価格が安く大量輸送が前提となる、海外から輸入された衣類や日用雑貨。
- 問6 関東平野を貫いて流れ、日本の河川の中で最も広い流域面積を持つ一級河川の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 長野県公立入試 類似）
- 信濃川
 - 石狩川
 - 利根川
 - 北上川
- 問7 ある産業の2021年における都道府県別事業所数を確認すると、東京都が55.5%と過半数を占めており、次いで大阪府、神奈川県の順となっています。このように、大都市への集中が著しい「出版業」が属する産業分類として、最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
- せんい工業
 - 金属工業
 - 情報通信業
 - 食料品工業
- 問8 群馬県の高原地帯で行われている「抑制栽培」について、農家がこの栽培方法を選択している経済的な理由として最も適切な説明を選択してください。（2022年 福島県公立入試 類似）
- 九州地方などの暖かい地域と出荷時期を重ねることで、市場でのシェアを競い合うため。
 - 冬の寒さが厳しいため、ビニールハウスを利用して成長を早める促成栽培を行う必要があるから。
 - 大消費地である東京から遠いため、輸送コストを削減するために収穫時期を遅らせる必要があるから。
 - 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。
- 問9 栃木県佐野市などにおいて、1960年代後半と1990年代後半の地形図を比較した際に見られる変化について、土地利用の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。（2016年 静岡県公立入試 類似）
- 森林が広がっていた山間部が、大規模な寺院が集まる宗教地区へと作り替えられている。
 - 沼地であった低湿地が、地形を変えることなくそのまま工場の排水処理施設として利用されている。
 - 都市部の商業地が、食料自給率を向上させるために大規模な畑へと転換されている。
 - かつては畑などの農地であった場所が、大規模な工業団地へと用途変更されている。
- 問10 栃木県の地形と冬の気候の特色を述べた次の文のうち、誤っているものはどれですか。なお、栃木県内には渡良瀬川や鬼怒川が流れ、北西部には標高の高い山地が連なっているものとします。（2022年 岡山県公立入試 類似）
- 冬には北西の山地側から「男体おろし」などと呼ばれる乾燥した冷たい季節風が吹き下ろす。
 - 冬は南東の海側から吹き込む湿った季節風の影響で、平野部でも毎日多くの降雪が見られる。
 - 冬の日照時間が長いという気候条件を活かし、ビニールハウスなどを用いた「いちご」の栽培が盛んである。
 - 夏は南東の海側からの季節風の影響を受け、冬に比べて降水量が多くなり、雷が発生しやすい。
- 問11 東京圏の人口動態を分析すると、東京都の昼夜間人口比率は119.2に達している一方、埼玉県や千葉県などの周辺の県では100を下回る数値となっています。このような統計上の特徴から読み取れる、東京圏における都市の機能分担と生活スタイルの説明として正しいものはどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- 周辺の県から東京都へ移住する人が急増した結果、周辺の県の夜間人口がゼロに近づいている。
 - 周辺の県に大規模な工業地帯が建設され、東京都から工場労働者が大量に流出している。
 - 東京都に事業所や大学などの都市機能が集中し、周辺の県が主に居住地の役割を担っている。
 - 東京都内で昼間に農作業を行う人が増えたため、一時的に人口が急増している。
- 問12 高度経済成長期に18歳で上京し、25歳で結婚、その4年後の1970年代半ばに多摩ニュータウンの集合住宅へ入居した人物のライフステージを考えたとき、当時の地域社会で起きていた現象の説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 佐賀県公立入試 類似）
- 入居時期が地域の出生数のピークと重なり、子供たちのための学校建設などが急ピッチで進んだ
 - 入居時期は1990年代にあたり、バブル崩壊による地価下落で人口が都心へ回帰し始めた
 - 入居当時は高度経済成長前であったため、周辺はまだ農村地帯であり集合住宅は稀であった
 - 2005年ごろの入居であったため、すでに地域の高齢化が進んでおり出生数は最低水準であった

答え合わせ・解説

問1	答え 1 埼玉県、千葉県、神奈川県などの近隣都県から、通勤や通学を目的として多くの人々が流入するため。	東京都は日本の政治・経済・教育の中心地であり、多くの企業や学校が集中しています。そのため、夜間は埼玉県や千葉県、神奈川県といった近隣都県の自宅で過ごしている人々が、日中になると仕事や学びのために東京都へ移動してきます。この通勤・通学に伴う人口移動の結果、東京都の昼間人口は夜間人口（その場所に住んでいる人の数）を大幅に上回ることになります。
問2	答え 3 1870年代に野球などの西洋文化がいち早く伝えられた地であり、県内には現在も日本を代表する貿易港である横浜港が位置している。	神奈川県は横浜港を通じて西洋の新しい技術や文化が流入する玄関口となりました。野球も1870年代に横浜の外国人居留地などを通じて伝えられたといわれています。選択肢にある最初の全国大会開催や最多優勝回数の記述は大阪府に関するものであり、生糸の生産地としての内陸県は群馬県などを指します。神奈川県は、バリー来航から貿易港の発展に至るまで、一貫して日本の開国プロセスの中心地でした。
問3	答え 4 もともと森林や山地だった場所が、区画整理によって計画的な住宅地となり、利便性を高めるために新しい駅が建設された。	1985年時点の地形図では等高線が入り組む山林であった場所が、2015年版ではなだらかな街区へと変化しており、これは大規模な造成が行われたことを示しています。「みなみ野」という地名の住宅地と「八王子みなみ野駅」の新設は、都市郊外における典型的なニュータウン開発の特徴を表しています。なお、神社などの歴史的施設は開発後も維持されることが多く、すべて取り壊されるといった説明は不適切です。
問4	答え 1 高速道路のインターチェンジ周辺	自動車輸送の重要性が高まったことで、トラックによる原材料の搬入や製品の出荷をよりスムーズに行う必要が生じました。北関東では東北自動車道や関越自動車道などの高速道路網が整備されたため、移動時間を短縮し輸送の効率性を高めることができるインターチェンジ付近に工場や物流センターが密集するようになりました。
問5	答え 1 小型・軽量で重量あたりの価格が高い、半導体等製造装置などの高付加価値製品。	航空輸送は船舶輸送に比べて運賃が高いため、成田国際空港のような空の港では、重量が軽く、かつ価格が高い「高付加価値製品」が多く扱われます。具体的には、半導体等製造装置や電子部品、医薬品などが挙げられます。一方で、自動車や鉄鋼は重量があるため、主に名古屋港などの海の港から船舶で輸出されます。
問6	答え 3 利根川	この河川は、群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都の1都5県にまたがる広大な流域を持っており、その面積は約16,840平方キロメートルに達します。日本で最も長い河川は信濃川ですが、流域面積ではこの河川が日本最大です。「坂東太郎」という愛称でも知られ、関東地方の農業や生活を支える重要な水資源となっています。
問7	答え 3 情報通信業	出版業は、書籍や雑誌などを通じて情報を発信・伝達する役割を担っているため、産業分類上は「情報通信業」に含まれます。この産業は、高度な情報が集まる大都市に立地する傾向が非常に強く、特に日本の中心である東京都に事業所が集中しています。食料品工業や金属工業などの製造業は、消費地に近いことや臨海部であることなどが重視されますが、出版業ほど東京一極集中は進んでいません。
問8	答え 4 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。	本来、野菜の多くは特定の季節に収穫が集中しますが、標高の高い涼しい気候を利用してあえて収穫時期を遅らせる「抑制栽培」を行うことで、供給が不足する夏場に市場へ出荷することが可能になります。これにより、他の産地との競合を避け、有利な価格で取引することができます。
問9	答え 4 かつては畑などの農地であった場所が、大規模な工業団地へと用途変更されている。	高度経済成長期以降、日本の産業構造が変化する中で、地方では大規模な工業団地の造成が進みました。栃木県佐野市などの事例を地形図で時系列に確認すると、それまで畑の地図記号が記されていた平坦な農地が、用途変更によって計画的な区画を持つ工業団地へと姿を変えた様子が分かります。
問10	答え 2 冬は南東の海側から吹き込む湿った季節風の影響で、平野部でも毎日多くの降雪が見られる。	栃木県の冬の気候は、南東（海側）からではなく、北西（山地側）から吹く乾燥した季節風によって決まります。そのため、冬は雨や雪が少なく乾燥した晴天の日が続くのが一般的です。選択肢にある「いちごの栽培」は、この豊富な日照時間を有効活用した施設園芸農業の代表例です。
問11	答え 3 東京都に事業所や大学などの都市機能が集中し、周辺の県が主に居住地の役割を担っている。	東京都の昼夜間人口比率が100を大きく超えている（119.2）事実、夜間人口（住民）よりも昼間に都内に滞在する人の方が多いことを示しています。これは東京都がビジネスや教育の中心地として機能しており、周辺の県がいわゆる「ベッドタウン」として、人々の生活（居住）の拠点となっているという地域的な役割分担が背景にあります。
問12	答え 1 入居時期が地域の出生数のピークと重なり、子供たちのための学校建設などが急ピッチで進んだ	高度経済成長期から1970年代にかけては、都市部への人口集中を背景に郊外のニュータウン開発が最も盛んな時期でした。18歳で上京した若者が結婚を経て1970年代半ばに入居するという流れは、当時の典型的な人口移動のパターンを示しています。この時期はニュータウン内での出産が相次ぎ、出生数がピークに達したため、教育施設や公園といったインフラ整備が急激に求められる社会状況にありました。